

Collection of Lectures
No. 1
Nagoya Branch, Greater
Asia Association

Def. Doc. # 2501

Exhibit # _____

50/

大亞細亞協會名古屋支部

講
演
集

第一輯

MATSUJI

1758

大亞細亞協會名古屋支部

講演集

第一輯

ります。(拍手)

私から申上げる迄もないことではありますが、名古屋附近から出てをらるゝ我が將士が上海上陸戦争以來、上海の攻略に、南京の占領に非常なる奮闘を續け、あの偉大なる戦果を挙げられたことは私は郷土の一人として諸君と共にこれを誇りとして全く御同慶に感ずるところであります。(拍手)

又其間諒からざる犠牲者を出し、其犠牲者の方々は家を忘れ、身を捨て、あの戦ひの間に「天皇陛下萬歳」を叫びつゝ護國の神となられたのであります。其志の壯なる、其意氣の盛んなる又武人の誇りとして其死處を得られたことは寧ろお喜びに堪えない次第でありますけれども、唯其郷里に残された方々に對しては又限り無き哀愁と御同情の念に堪えないのであります。

猶ほ其間我が郷土の諸君が所謂銃後の後援として有ゆる方面に意を盡され、戰場に在る將士が安んじて其任務に就き、遣されたものが又其業務に安んずることを得ることはこれひとへに郷黨諸君の御同情の賜であると信じまして、此點私として此席に於いて諸君の前に深く感謝する次第であります。

只今も申しました通り聖戦方に一年、我が皇軍は中支は過日徐州を占領し、北支は北京より蒙古に亘る廣い地域を占領して此間支那に與へた損害を合せ數へますれば、敵の死傷は尠くも百萬を越

えてをると思ひます。其他武器、彈藥は勿論戰場に於ける幾多の器材を失つたことも枚舉に遑ありません。

斯くの如く此一年間に於ける皇軍の作戦の威力は非常に大なるものがあつたに拘らず、御承知の通り猶ほ國民政府は、其主體たるところの蔣介石は猶ほ我れに向つて降伏の色が見えないのであります。其由つて來るところは果して何でありませうか。それは既に先刻鹿子木博士又は白鳥公使に依つていろ／＼御説明がありましたことに依つて諸君も御承知と思ひますから、私から繰返しません。要するに今日此現状に於いて國民政府はまだ／＼彼の所謂長期抗戦を持續するの傾向にあるのであります。又此聖戦が何時迄續き、何時になつたら支那軍を剿滅し得るや、は神ならぬものの到底明確に豫想し得るところではありませんが、私の見るところに依りますれば今日の如く日本の朝野が擧げて眞に一心となり、國を擧げて支那に對する我が聖戦の目的に奮然邁進するならば遠からずして此目的を達成する時期が來るであらうと信じてをるのであります。

唯今次の支那事變の我が軍隊の直接の相手は國民政府並に其軍隊でありますが、而も其背後に在つてこれを支持してをるものこそ支那よりも更に／＼大きく強いものでありますから、これ等の關係を知り、其間に處して支那問題を解決するには猶ほ長き時間を要し我が國民として更に大なる覺

悟を要するのであります。茲に即ち長期作戦といふ言葉が行はれる所以であります。此際我國民は眞に億兆一心、其目的の達成に邁進し彼の日本に抗せんとする支那の國民黨並に其武力を我が武力を以て徹底的にそれを膺懲しこれを打壊することが第一に必要であります。

而も其武力を以て支那を打壊することのみを以て、此度の事變の目的を完全に達し得るものでないことはこれ又諸君の夙に御存じのことと思ひます。即ち此度の日支衝突の根本の原因は所謂東西文化思想の相剋であります。過去一世紀以來支那に蔓つて來た西洋の忌はしき思想、同時に政治、經濟其他の方面に於ける列國の經營などが今日の時局を致さしめたのであります。此意味に於いて我々は當然思想的に又政治的に經濟的に支那人に向つて望まなければならぬと思ひます。左なくして唯武力を以て支那四百餘州を席捲し、假令我が軍が遠く崑崙を越えて西藏の野に到り、又南嶺を越えて廣東の地に及びましても、支那四億の民をして思想的、政治的に彼等を反省覺醒せしむることなくんば其成果を求むることは出來ないのであります。茲に今日の時局の重大性があるのであります。茲に我々が思ひを深く致して、殊に一般國際情勢の變化に備へて其間に善處することが肝要であると思ひます。

是れに就きましては只今白鳥公使から既にお話がありましたから私からは敢へて申し上げません。

唯私として特に諸君に申し上げたいことは、從來我が日本人が支那といふものを見る眼が常にこれを劣等な民族、貧弱な國家として輕侮の念を以て見てをることでありました。今日日支兩國の上に感情的に戰爭の原因があると致しますならば、我々國民が支那を見ること餘りにも輕蔑して無用に支那を侮蔑したことが大なる原因を成してをりはせぬかと思ふのであります。此點に於いて我が國民の大なる反省を促がしたいと思ひます。

事變以來我が國民は、口先で「支那膺懲」といふことを申します。成程支那には大いにこれを膺懲すべく、且つ徹底的にこれを打壊すべき分子は確かにあるのであります。但し支那四億の民衆に對しては寧ろこれを膺懲するといふよりもこれを救済することが必要であると思ひます。(拍手) 彼等は心ならずも或強力の下に壓迫され強制されて今日の如き悲惨なる状態に陥つてをるのでありますから、此悲惨なる民衆を救ふこそ今日の支那に對する聖戰の根本の目的であります。

斯かる考へ方の上に立つて、軍に従ふものは勿論、政治、經濟、思想等の各方面に就いて支那に關心を持つ人、更に内地に在つて銃後の後援に従ふ同胞諸君は此點に就いて深く鑑みなければならぬと思ふのであります。

我が郷土の先輩で古き昔になります、有名な武將がおります。朝鮮征伐に大功を樹て陣中追あ

れば虎をも退治した、而も亦一面非常に仁愛の心が深く、一度兒女に接すれば泣く兒も黙まるといふ人、それはいふ迄もなく加藤清正であります。加藤清正は朝鮮では「鬼上官」と呼ばれる程威名を轟かせた武將であります。其日本に歸る時に朝鮮の人で清正公を慕うて日本に來た人があります。金官といふ人ですが、金は清正公に仕へること十餘年、清正公が亡くなつた時、公を慕うて殉死しました。今熊本の清正公のお墓の傍らに葬られてありまして、私も先年其お墓にお詣りしたことがあります。此清正公の態度こそやはり今日支那に臨むところのもの大いに鑑みるべき點であらうと思ふのであります。

話が私の事に亘りまして甚だ恐縮であります。私が先般上海から還る時に一疋の小犬を連れて参りました。其小犬は私が昨年暮、南京に入城しました時、南京の市中を主人を失うて彷徨してをつた小犬であります。それを兵隊が可哀さうだと思つて拾つて來て私の所に持つて來ました。最初私が手をさし伸べても恐れて近づかない、パンをやつても食べません。肉をやつても戦はらいて食べません。非常に恐怖の念を抱いてをりましたが、だん／＼日を経るに従つて馴れて参りまして、其後二ヶ月の後に私が上海に歸る頃は私を慕うて私の傍を離れることが出来なくなりました。私も洵に別るゝに忍びずして日本へ連れて歸つたのであります。私の宅へ連れて歸つてもう五日も経つと

家のものにも懐いて参りました。又私の家に從來をりました日本の犬とも戯れて非常によく馴れてをります。此犬が私のために殉死するだらうとは思ひませんが（笑聲、拍手交々起る）少くも私に懐いたことは事實であります。

それから上海にをりました私の軍司令部の村上副官が、やはり南京に於いて生後一年にならない男の兒を連れて歸りました。上海に歸つて支那人を雇うてこれを育てたのであります。私の歸る頃にはだん／＼我々に懐いてをりましたが、今日何ういふ風な状態にをるか、時々私も夢に見る位であります。其子が幸ひ生ひ立つて一人前になりましたならば此子供こそ其村上中佐と生死を共にするんぢやないかと思ひます。（拍手）

斯やうなことは何もお互の自慢話でなく、日本の武士の情として當然のことです。併し斯くの如き武士道精神の發露こそ、軍に従ふものは勿論一般日本人として支那に對する感情の上に大いに考へなければならぬことと思ふのであります。先刻も申上げた通り支那四億民衆といふものが我々日本民族に抵抗し、飽迄我々と争はんとしてをるものぢやない、假りに左様な行爲に出づるやうなことがあると致しまして、これ又四圍の情勢、若しくは誤まれる教育指導に依つて茲に到らしめたものであります。これは我が東洋古來の精神、東洋固有の文化、さては此東洋の風土、歴

史より見て洵に矛盾したものと考へるのであります

茲に於いて私軍司令官として彼地に在り、又今日任を解かれて内地へ還つて來た身としては今夕諸君の前に此私共の感情を吐露して、今後支那の人民に臨む上に於いて大いに考へなければならぬと思ふのであります。即ち所謂膺懲すべきもの、打壞すべきものは飽迄膺懲し、それに強制されて

已むなく動いてをるものに對して別に考へてやるといふことが非常に重要なことであると思ふのであります。即ち支那の民衆に對してはこれを憐れみ、これを愛護して、これを目下の悲惨なる境遇

から救ひ出してやるといふことに深く心を致さなければならぬと思ふのであります。此事たるや獨り今申上げたやうな支那人に對する個人的愛情とか、同情とかいふことの範圍ばかりでなく、これを政治的に見ましても、これを經濟的に見ましても、亦さう考へられるのであります。我々が支那に對して反省を求むべきことは求むると共に支那の人民をして支那を復興せしむべ

く、政治的に經濟的にこれを支持應援して行くだけの覺悟が今日より必要であると思ひます。これなくして唯我々日本國民が支那を膺懲し、支那の領土を占領したところで何にもならない、政治的にも經濟的にも唯日本自らを利すれば足れり、とするならばこれ又非常な誤りであると思ふのであります。我々は口を開けば西洋人が我が東洋人を壓迫し、東洋を搾取すると申してをりますけれど

250

昭和十三年
五月
支那

大正の要を
義に就て
武運の
拍子

も、顧みて我が日本が過去半世紀の間、支那に對して政治的にも、經濟的にも動いたところの跡方を考へ、更に又今日の支那事變に際し國民がややもすれば此大なる犠牲に伴ふ當然の報酬として支那に對して何ものかを求むる聲がありとすれば私は特に諸君の前に訴へたいと思ふのであります。

彼の滿洲事變が起つた當時、日本は精神的にも物質的にも相當の犠牲を拂つたのであります。當時日本の輿論はこれ程の犠牲を拂つたのであるから當然これに對する報酬を受くべきである、日本が滿洲に於いて何かの利権を得べきであるといふ考へを抱かれた向もないではなかつた、私共はこれに對して全然反對の意見を有してをつたのであります。即ち滿洲國の建設——これこそは我々日本が所謂皇道の精神に依つて三千萬民衆を救はんがために立つたのであります。須らく我々は自己を犠牲にして滿洲を救はなければならぬといつた、其後幸ひにして滿洲國は固より十分なる形になつたとは考へませんけれども、大體に於いて健全なる發達を遂げて今日に到つてをります。今日日支事變の重大なる場面に遭遇して、我々は滿洲國の存立といふことが此東亞の大勢の上に如何に重要な役目を持つてをるかといふことを始めて知つたんぢやないかと思ふのであります。今申しましたやうに、滿洲國に對して利慾的な考へ方を持つてをられる方は多くはないと思ひますが、今日の支那の事變に對しても同様であります。此支那に對する日本の犠牲は滿洲事變當時よりも更に大

なるものがあります。併しこれは此偉大なる理想に伴ふ當然の結果としての大なる犠牲であります。此大なる犠牲を我々が忍び、茲に我々が皇道精神を飽迄發揮することに依つて我が日本は永遠に發展するのであります。これを心しなければ唯戦つて假りに武力に依つて支那の領土を占領し、支那南北の地方を日本の手に入れたとしても、それは遠からずして駄目だと思ふのであります。

斯やうな考へ方が私共の大亞細亞協會の精神であります。これを一言にして申しますれば、大亞細亞協會の主義、精神なるものは所謂皇道精神であります。己れを虚うして國家社會に奉ずる心、己れを犠牲にして國家社會に貢獻する精神、これ即ち我が皇道の精神であります。此精神こそ、私共が稱へて以て大亞細亞精神と致してをるのであります。此大亞細亞主義の精神に依つてのみ此度の聖戦の目的を達成し得ると我々は確信してをります。(拍手)

我が郷土の諸君、彼の偉大なる豊太閤が此地より出でられ、當時麻の如く亂れた地方を平定して國內を統一し、而も其志更に大きく朝鮮に支那に其鋒を向けられたことはよく御承知の通りであります。然るに豊太閤は不幸中道にして歿せられたのでありますが、今日此重大なる時局、支那と日本との問題、日本と世界各国との問題——此大いなる問題の解決に當つて、此豊太閤の血を承けた我が郷土の諸君の中より「昭和の豊太閤」、更に偉大なる豊太閤を名古屋人の中から出さずして已

むべきではありません。大いに諸君の反省と努力とを冀望する所以であります。

大分時間も豫定より遅くなりましたからこれを以て私の話を終ることに致します。多數の諸君が長い時間謹聴されましたことを私から深く御禮申上げます。(拍手)

——をはり——

支那事變の本質と其對策

文學博士 鹿子木員信先生講演

今夕この盛大なる大亞細亞協會名古屋支部の講演會開催に際しまして、只今も御言及あらせられましたように御當地出身の上海、南京攻略の名將松井大將閣下の驥尾に附し、又我が外交陣の有する最も卓抜なる機略縱横叡慮深謀の外交官であらせられます白鳥公使閣下と共に、所懐の一端を申し上げる機會を得ました事は洵に感激に堪えません。只皆様は噓かし松井閣下の風貌と其の御警咳に接する熱望の切なるものがあると存じますので、従つて私よりはなるべく簡潔に申し上げます席を白鳥公使に譲り、又松井大將閣下の御講演を期待する次第であります。

只今御紹介がありましたように私はこの正月より四月に及びまして、親しく北支方面軍に配屬せられたのであります。或ひは京綏線、或ひは京漢線、或ひは山西省、或ひは津浦線、膠濟線方面も親しく視察しまして、前線將兵の忠戰奮闘の御苦勞を拜察し、又後方占領地域に於ける實情を視察

し、親しく北支に於ける支那最近の政情の一端に觸るゝ光榮を持ちまして先程歸つて來たものであります。この親しく見聞するところ、及び多年研鑽せるところのものを士氣と致しまして、今夕「支那事變の本質と其の對策」と云ふ題の下に簡潔に其の要領を搔摘んで申し上げてみたいと思ひます。この度の支那事變は其の由來する所何處にあるのであるか、今日支那事變の本質は如何、この間に對する適切明快なる回答が、聽て又この支那事變に對する最も有効適切なる對策、一方策を明らかにする所以の道であることは申すまでもございません。支那事變の本質が何處に存するかといふことを的確に把握することなくしては、私共は有効適切なる方策を案出し來ることは困難であります。世の一部の論者の中には今次の支那事變は經濟的利害關係に其の原因をもつてをるものであるといふ人がないではありません。例へば事變の初期に於きまして、外務省情報部の海外に對する聲明の如き、即ち「この度の支那事變は其の原因を、持てる國と持たざる國との争ひに眞因を有するのである」と云ふが如き思想の根本にあつて、今次事變の眞因が實に經濟的利害にあるといふ思想を前提として述べられたのであります。又一部の海外の日本の對支政策に對する批判の中には今次支那事變の眞相は日本の政治的支那支配の野心に基くものであると云ふが如き批評も加へられたことが必ずしもないではありません。果して然らば私は深く今次事變の因つて來る所のも

のを検討致しますとき、私は其の本質に於ては然らずと斷言して憚らないのであります。蓋し、若し私共が純粹に經濟的立場に立つて支那を見まするとき、日本にとりては申すに及ばず、支那にとりましても、日支兩國互ひに提携し、協力し、合作することが即ち百利あつて一害ないのであります。このことは日本人の所謂手前味噌ではありません。

孫文は其の提唱する處の三民主義を論述するに當りまして、其の第一の主義綱領たる民族主義を説くに當りましては、極力支那より凡ゆる海外の横益、凡ゆる外國の資本と云ふものを驅逐せざれば已まざるの概を示したのであります。然るに其の一度去つて三民主義の第三の綱領たる民生主義を唱導するに當りまして、少くも其の實施案として、斯かる場合には支那を經濟的に興す所以の道は、資本及び技術、學問、經驗等を外國に仰ぐに非ずんば到底其の目的を達成し得ないといふことを強く指適してをります。蓋し皆さんも御承知の通り支那は、殆ど限りなき勞働力といふものを持つてをります。同時に殆ど無盡蔵といつていゝ天然資源を有してをります。而もこの無盡蔵の天然資源、無限の勞働能力、これは今日尙生きずに遊んでをるのであります。而して其の無盡蔵の天然資源、無限の勞働能力が遊んでをります所以のものは、兩者を結び付けて、以て文化的生産品を作るに必要な學問、技術、經驗、經營、能力及び資本が支那にないからであります。孫文はこのこ

とをよく知つてをったのであります。

孫文は外國の資本と技術、經營能力とをもつて支那の經濟復興を計らうと考へた次第でございます。而して私共が先に申しましたように純粹に經濟といふ立場に立つてこれを見ます時に、支那と致しましては何處の國と結ぶのが最も有利であるか、一何處の國の學問、資本、技術を輸入するのが最も有利であるかと云へば、云はずと知れたこと、日本の學問、技術、資本を輸入することが經濟的立場に立つて見る限り最も有利であります。一拍手一而も支那は我が財界、實業界の熱心な慫慂、勸説ありしに拘らず遂に日本との經濟合作を肯んじなかつたのであります。

更に進みまして私共にして純粹に政治といふ立場に立ちまして物事を見ます時、日本にとつては申すに及ばず支那にとりましても、日支が政治的に提携し協力するといふことは、兩國にとつて百利あつて一害ないといふことは明々白々の事實であります。理の當然であります。支那が今日思想的に、文化的に、又經濟的に殆ど歐米の殖民地となり了せたり下つたりに拘らず、政治的には依然として獨立國の體面を保ちつゝある所以のものは何故であるか、これは尤もその隣りに強國日本をもつてをるからであります。(拍手) 支那は窮極に於て歐米に依る共同管理、或ひは歐米に依る分割的支配といふ運命に陥らうとしてをるのであります。支那にとつて其の最も近き實例は、あ

の滿洲事變處理に對する所謂國際聯盟のリットン案そのものであります。國際聯盟の滿洲事變解決案に採擇せられましたリットン報告書の解決案なるものは、滿洲事變解決の根本條件と致しまして實に國際聯盟に依る全支に亘る共同管理を匂はしてをるのであります。支那はこれに氣付かず、日本のみ敢然としてこれに反對したのであります。而して日本の反對によつて支那は尙今日政治的獨立を保ち得て來てゐるのであります。支那は強國日本の存在に依りまして今日迄政治的獨立の體面を維持して來たのでありますから、支那が翩然覺めて日本との政治的提携協力に入ります時、國際間に於ける支那の政治的向上は期せずして招來するものと斷ぜざるを得ないのであります。それにも拘らず支那は日本との政治的提携を肯んじなかつたのであります。否、寧ろ徹底的侮日、排日、抗日の一路に驍進して行つたのであります。其の故如何、もし支那事變が本當に政治的利害に存しないといふならば、支那事變の本質は何處にあるか、この間を新しく掲げて中華民國といふ國家を見直しますのは、私共の目に映りますのは次の如き事態であります。

申す迄もなく中華民國と稱する所の國家は、國民政府の實質的に構成してをる所の國家であります。而して國民政府なるものは申す迄もなく支那國民黨の權力的組織に他ならないのであります。而して國民黨といふものを作り、象どり、これを組織して、一定の價值を與へつゝある所のものは

既に云ひ囃されてゐる三民主義に依るところの思想に他ならないのであります。この三民主義といふ思想が遂に中華民國の魂となつたのであります。この魂に依りまして中華民國といふものが其の一定の面貌を備へ、一定の眼光まなざしを示し、一定の動向といふものをとるに到つたのであります。

然らばその三民主義とは如何なる思想であるか、其の魂の姿は如何なるものか、三民主義と申しますのはこれを歴史的に申しますれば、約三十年前中華民國の生みの親とも云ふべき孫文の提唱にかゝる思想であります。而してこの三民主義が金科玉條の成文律の形をとりましたのは只今より十四年前、これが書物として刊行されたことを初めとするのであります。國民黨はこの思想をして、この孫文の提唱するところの三民主義なる金科玉條をモットーと致しまして、其の學校教育の指針となし、軍隊教練の根本精神たらしめ、其の政府の國策遂行の大原理となしたのであります。これを以て支那四億の民を今日あるがとき姿に引摺り來つたのであります。然らば其の思想の内容如何、三民主義とは讀んで字の通り、第一に民族主義、第二に民權主義、第三に民生主義、其の何れもが民といふ字を以て始まる三つの主義から成り立つた處の一聯の思想組織であります。

先づ第一の民族主義——孫文は近世支那の衰亡の原因を支那國民の間に民族的精神、民族主義の缺亡、若くは喪失に存すると見まして、再び四億の民の胸の中に民を思ひ國を思ふ心を吹き込まう

としたのであります。彼が申しますのに「支那の社會は餘りにも家族と稱するものに終始する、支那の人にとつて最も大切なものは家であつて國でない。其の爲に家の爲には敢へて身を犠牲にすることを辭さないが、一度國といふことになる」と「我不關焉」の態度をとることになるのである。これ即ち支那の國家が漸次歐米諸國の壓迫を受けて衰亡し來れる原因である。故にもう一度支那を興さうと思ふならば、支那の民衆の心に國といふ考へ、民族といふ考へを吹き込まなければならぬ。』私共として洵に同情共鳴を禁じ得ない感情を起させるのであります。併し、彼がこの支那民族主義なるものをごく短時間の中に國民に作興せんとするに際して採れる方法に到つては、全然私共の期待に反するものがあつたのであります。蓋し、支那民族に對して民族精神を叫ぶものならば必ずや五千年の久しき支那民族を導いて、一つの文化の段階より他の文化の段階に進み來れる——又、支那民族を兎も角も世界に於ける有數なる文化國民と銀へ來れるところの——其の精神を作興すべきであつた。而して若し支那に幾分なりとも斯くの如き五千年の久しき歴史を通して支那の民族を文化的民族たらしめたものがありとすれば、それは孔子の教へに體現されてあるあの王道の精神であると思ひます。此處に實は支那民族の生み出せる支那獨得の精神があるのであります。眞に支那民族精神を作興せんと欲するのでありますならば、この精神を深く再興しなければならぬので

あります。

然るに孫文及び其の同志は、其の當時國民黨のなせる處は、全く私共の期待する處の反對を行き孔子の教へを以て、王道の深き哲學を以て、忠孝仁義を徒らに民を束縛する桎梏であると斷じて、これを無視し、これを泥土に委することを敢へて意としなかつたのであります。従つて大亞細亞民族主義といふ其の叫び聲の内容とするところのものは、實に三民主義中の第二の主義主張であります民權主義、即ち民主主義、即ちデモクラシー、第三の主張である民生主義、孫文自らの解釋に依れば社會主義、即ち共產主義でありまして、斯くして今日の中華民國なるものゝ實相を譬へをもつて云ひ現しますれば、三民主義と云ふ一つのモートルに依つて動きつゝある處の爆弾にも譬ふべきものであります。而して其の三民主義なるものは、其の鐵の彈の外側は民族主義と呼ぶものであります。この民族主義と呼ぶ外殼を充ち満してある處のものは、デモクラシー、及びソシアリズムといふ何れも歐米傳來の思想であります。然らば民族主義の所謂實質内容たる處の民權主義、若くは民主主義及び民生主義なるものゝ内容は如何なるものか、先づ第一に民權主義であります。

この民權主義が歐米傳來のものであるといふことは、孫文自らが繰り返し繰り返し指適し力説してゐるところであります。換言致しますればアメリカの獨立、フランスの革命、これ等十八世紀末

に西洋に出現して参りましたところの思想をとり來つて、この思想の礎の上に新しき支那の國家を建設せんとしたのであります。而して支那の國民黨が民權主義を以て建國の礎と信ずると共に、民權主義的政治體制を以て、人類の最も進歩せる理想的政治體制であるとする事は、これは當然のことです。さて一度民主主義政治體制を以て人類の最も進歩せる理想的政治體制なりといへば逸早く其理想を以て其國を成せるフランス共和國、北米合衆國といふが如き民主主義的國家が最も徹底的なりといふことも、マルクス共産主義のソヴェイト・ロシアに最も進歩せる國家形態を見るときもこれ又當然のことです。殷鑑遠からず、大正この方日本の政治、法律、經濟等の學問領域を風靡せる思想は同じデモクラシーの思想であります。

さて此デモクラシーの思想に阿附してこれに迎合せる所の學者先生は、歐米の民主主義的國家に傾倒し、心酔し、更に進んでマルクス共産主義のソヴェイト・ロシアを崇拜せる事實は猶ほ私共の記憶に新たなるものがあります。(拍手) 而して一度此民主主義的國家形態に此世乍らの、最も進歩せる國家なり、社會なりの組織を見る以上、民主主義とは全然相反する立場に立つてをる我が皇國日本の、君に對して忠節を盡すを本分とし、忠孝一途を踏むべき礎の上に構成されてをる我が國體に對する彼等の態度は輕蔑、侮辱であります。

孫文は其民權主義——即ち民主主義を述べてをる際に、繰り返し／＼いつてをることは、君權主義、或は神權主義の政治形態を論じまして其何れもが畢竟民權主義に立到る迄の曖昧なる政治であるといつてをります。君に忠節を盡すを本分とするといふことは私を忘れ、己れを捨て、大君に仕へまつらんとする心であります。此心の上に組立てられた君主主義的政治形態は、民主主義的國家を崇拜するものの中には一つの未開野蠻の政治形態としか映らないのであります。

幸ひにして我が日本に於いては私共は大君を天皇として戴き奉ると共に、現神として戴き奉つてをるのであります。而して斯くの如きは民主主義、民權主義的國家を以て最も進歩せる政治形態なりとする彼等は目して最も未開野蠻の政治形態であると事もなげに論じ去るのであります。

斯くして孫文及び其國民黨は民權主義を以て其國を成すと共に、一面歐米の民主主義的國家を先進國と仰ぎ、これに傾倒し、これに心酔し、これを崇拜し、これに依存せんとする外交政策を採つたのであります。従つて皇國の國家國體といふものに對して、侮蔑、輕蔑の排日思想を長養し來つたといふことはこれ又自然の勢ひといはなければならぬのであります。即ち清朝覆滅の後、新らしく建設されました國家が中華民國——即ちレパブリック・オヴ・チャイナといふことになつた時に、今次の事變が其時既に約束されたといつても過言ではないのであります。(拍手)

更に進みまして、民生主義——三民主義の第三の思想である民生主義の検討に移りたいと思ひます。先に申しました通り、孫文は繰返し々々民生主義は即ち社會主義、共產主義であるといつてをるのであります。而も孫文は一面極めて急進的思想家であると同時に、他面極めて現實的な實際家でもあつた、而して一度彼が支那の經濟復興といふことを考へるに當りましては、到底マルクス共產主義を以て當時の支那を律することは思ひもよらぬことであると知つて、此意味に於いて支那の直ぐさま赤化といふことには反對してをります。其結果、外國の資本を仰いで支那の經濟的復興といふことに努力したのであります。

けれども理論的には彼の民生主義の標榜するところは、遂に共產主義の羈絆を脱してをらないのでありまして、彼は民生主義を説いてをります中に、明かに「民生主義の理想は窮極は共產主義である」と斷言してをるのであります。然る上に彼は又共產主義の開祖カール・マルクスなるものに対して此上もない崇敬の誠を輸してをります。猶太魂の持主であるマルクスといふ男を捉へて、支那第一の人物といはれる孔子と並べてこれと共に聖人といつてをる、或處ではマルクスなるものを人類數千年來の知識經驗を組織大成せる第一人者であるといふ風な、途方もないことをいつてをります。

斯くの如くにして彼の共產主義的思想は自ら此マルクス共產主義者の建てたソヴェイト・ロシアといふものに對して此上もない親しみを感じ、ソヴェイト・ロシアといふものに正義人道の體現を求めようとしたのであります。彼は丁度大正十四年（十四年前）に日本に参りましたが、方に日本を去るに際し、神戸の高等女學校に於いて「大亞細亞主義」といふ題の下に一場の講演を試みました。而して其講演の中に繰返し々々「世界各國は何れも利己のみこれ圖つてをるに拘らず、權力を以て弱者を壓迫する政策を採りつゝあるに拘らず、獨りソヴェイト・ロシアのみ「弱きを扶け、強きを挫く」仁義の國家を體現してをるのである」と申しまして、其講演の最後の結語として、「かゝるが故に我が支那はこれよりソヴェイト・ロシアと固く結んで進んで行かうと思つてをる、此際日本はどうするか、我々と一緒に進んで行くか、それとも我々と反對の立場をとるか……」といつてをります。これが彼の所謂「大亞細亞主義」の結論であります。これに依つて見ても明らかであります如く、孫文獨特の大亞細亞主義とは要するに亞細亞赤化主義であります。全亞細亞を擧げてソヴェイト・ロシアの犠牲の壇上に捧げようとするものであります。

而して國民黨は其後紆餘曲折はありましたが、遂に一昨年暮の西安事變後又此孫文の聯露容共主義の政策を實行してをります。何れにしても三民主義の第三の主義である民生主義なるものは畢

竟するに思想的にも理論的にも、マルクス共産主義に傾倒してをるといふことだけでは何人も疑ひを容れない處であります。而して此點からソヴェイト・ロシアに對する親善政策といふものが生れて來るのであります。

而も其ソヴェイト・ロシアは日本とは如何なる關係にあるか、ソヴェイト・ロシアは要するに民主主義的傾向を畸形的に徹底化したものであります。然るに君に忠節を盡すを本分とする我が國家國體は如何なる立場にあるか、日本國家の據つて以て立つ根本の原理は神武天皇の御建國の御言葉の中に明らかに示されてをるのであります。即ち「まつろはぬもの共を平げる」といふことが神武天皇御建國の精神であります。日本臣民をまつろふとされるのであります。まつろふとは己れを滅して高き、大いなる公けに奉ずる、現神に仕へ奉らんとするものであります。現神のために一身一家、己れを滅して悔みざる犠牲の精神であります。これに反し民主主義、其背景の自由主義は自らのために他をして己れに仕へしむる處の主義、他をして己れにまつろはしむるところの主義であります。斯くの如く此二ツのものは根本的に異つてをるものであります。全く氷炭相容れざるものがあるのであります。さればこそソヴェイト・ロシアは日本の此立派なる國家、國體を以て全世界赤化の野望を達成する最大にして且つ最後の邪魔ものなりとしてをるのであります。従つて此日本國

家に對して有ゆる破壊手段を探り來つたのであります。日本國家及び日本國民の指導者を養成するところの全國の高等専門學校、帝國大學、其他の大學が此ソヴェイト・ロシアに巢食ふ處のマルクス共産主義の巢窟であつたといふ一事を以てしましても、ソヴェイト・ロシアが我が皇國を潰滅することに如何に全力を擧げてゐるかが察知されるのであつて、これが何よりの證據であります。

斯くの如き關係にあるソヴェイト・ロシアと中華民國が相結ぶ以上、我皇國と對蹠的立場にある彼等が飽迄日本に反抗しようとして抗日精神が漲りつゝあるのもこれ又見易き道理であります。斯くて民族主義を要點とするところの外殼の内容は侮日の精神を含むところの民主主義の思想と、進んで抗日の思想を長養せるところの民生主義の思想であります。即ち中華民國の動力である三民主義は實に抗日の爆弾ともいふべきものであります。此抗日の爆弾が斯くして一日々々と其力を普遍化し來つたものであります。昨年七月七日の夜盧溝橋事件が起ると起らないとに向らず、其衝突は何時かは起るべき運命にあつたのであります。さればこそ事變勃發當時日本政府の言明した現地解決、事件不擴大の精神は遂に貫徹することが出來ず、遂に今日の如く戦禍の無限の擴大を招來したのであります。

事情斯くの如くでありますから、今度の事變の對策としては私共は此中華民國の動力たる三民主

義といふ思想にトドメを刺さなければならぬ、而も此三民主義の思想は今日國民政府といふ具體的な權力組織となつて現はれ、而して此權力的組織が百萬、二百萬の大軍となつて現はれ來つたのであります。それ故に此事變の急速なる解決を圖る途は先づ作戦的に此三民主義の中心である國民政府及び國民黨に其直屬の中央軍に再び起つ能はざる底の大打撃を與へなければなりません。此點に就きまして、上海方面に於ける最高の指揮官である松井大將閣下の御苦心は知る人ぞ知るでありまして、松井大將の指導された戦ひは此敵の急所に加へた一撃であります。非常なる困難があつたにも拘らず、忠勇なる我が皇軍將士の奮戦に依つて其目的を達せられ、今後の作戦も亦此松井大將の御經綸が最後には軍を指導するであらうと私は確信してをる次第であります。(拍手)

最後に申上げたいことは今次の事變は一面からいへばこれは思想戦であります。従つて唯敵を打懲らすといふことばかりでなく、私は飽くまでも思想と魂とを以て支那の過まれる自由主義、民主主義、社會主義、共產主義の思想を根こそぎ除かなければと思ひます。私共も甚だ微力乍ら彼地に於いて其方面の仕事を目下始めつゝある次第であります。

併し今日何よりも必要なことは、日本臣民が其心の中から日本臣民たるに適はしからぬ自由主義、民主主義の思想を根こそぎして、再び日本臣民たる認識を取戻し、

みたまわれ いけるしるしあり

あめつちの さかゆるときに

あへらくおもほゆ

と故人が詠じましたやうに我々の此身體、此生命は自分のものでもなければ、親のものでもない、實に大君のものである、現神のものである、といふ此認識を一層透徹し、此思想に徹底することに依つて始めて、私共は強力なる思想戦に従事することが出来、以て戦局の急速なる有終の美を齎すことが出来ると確信するものであります。

いろ／＼まだ申上げたいことが多々ございますけれども、既に時間が過ぎてをりますから、これを以て終ることに致します。(拍手)

——をはり——

支那問題を繞る外國の關係

特命全權公使 白鳥敏夫閣下講演

鹿子木博士の御雄辯の後を承け、又皆さんお待兼の松井大將が次に控へておいでになる其間に決まつて私は、今日の支那問題を繞る外國の關係に就きまして單なる事實——無味乾燥な事實を少し申上げたいと思ひます。

今日世人は日支事變をどういふ風に考へてをるか、此事變がどう治まるかと全國の人が皆考へてをると思ふのであります。恐らく今夕此處にお集まりの皆さんも此問題に就いて左様にお考へになつてをらるゝことと思ひます。支那の事變をどう片づけるか、今日我々が此事變をどうするかといふことは我々自身の決心と覺悟の問題であると申していいと思ふのであります。同時に此問題は頗る複雑なる國際關係を持つてをりまするがために、我々日本の眞意を諸外國に徹底せしむるといふ

ことはこれ又中々困難な問題であると思ひます。それは斯くいふ私自身すらこれが今後解決されるものかといふことを考へると共に、此支那事變といふものに對して如何に外界の力が作用するかといふ點に就いて大體のお話を申上げたいと思ひます。

今度の事變は日本としては全くこれは思ひ掛けぬ事件であります。正直に申して日本には何等政府と致しましても、或は其他の方面に於いても何人も斯ういふ大戦争をするといふことは考へなかつたことであらうと思ひます。一般國民に至つては同じ東亞の國民が互に鎗を削るといふことは會つて考へなかつたであらうと思ふ。

従つて去年七月七日、蘆溝橋事件が起りましたも、一般は勿論此事件は間もなく解決するだらうと考へ、政府も亦此事件を現地で解決せんとして不擴大主義を叫んだのも其當時の日本の一般の氣持でありました。又それは軍部の準備の上から見ても極めて當然のことだつたと思ひます。

これに對して支那の方では過去數年に亘つて日本と一戦を交へようとして、蔣介石の國民政府は若々其準備を致してをつたといふことが事件勃發後、追々と分つて參つたのであります。とに角、日本側としては事態さういふ風でありましたから、事變が擴大して遂に今日の如くになりました此日支關係を、此戦争の後に於いて如何に調節するかといふことが大いなる問題であると思ひます。

其點政府に於きましても、果して明確なる具體的の解決案といふものがおありになるかどうか、私は多分の疑ひを持つてをるものであります。

昨年の秋の末、蔣介石はドイツ大使を通じまして、和平の交渉を日本に致したことがありますが其條件は五ヶ條でありまして、これだけの大事變の始末として、國民一般から考へて甚だ物足りないものであつたといふことは御承知の通りであります。其後戦局は更に擴大し、さうして政府はイギリス、アメリカに向つて『日本には領土的野心はない、日本の欲するところは日支親善である』と高唱してをります。その目的は『排日抗日の蔣介石國民政府竝に國民黨一味の者を膺懲するにあり』と申してをるのであります。それは政府の今日迄中外に發表した聲明書の中にもさういふことが現はれてをるのであります。此事變の最後の目的は蔣介石政府を潰滅するといふことだけであります。

一般國民は蔣介石政府さへ打倒すれば、それで満足であるか、これに關してはまだ餘り言論方面を代表する方からの意見を聴いてをりません。従つて輿論の趨向が分からないのであります。蔣介石政府の潰滅といふことが目的であるとすれば、さて蔣介石政府が潰滅した後、日本と支那との間にどういふ風にして東洋の永遠の平和が来るか、或は世界の平和が来るか、其世界の平和、東洋の

平和といふものが蔣介石政府の潰滅の後どういふ風に来るのであるか、依然として問題は明瞭でないと思ひます。蔣介石政府を倒すといふことは分かるけれども其後どうなるか分からない、東洋の平和といふことは洵に結構なことでありますから、これもやはり明瞭にしなければならぬと思ひます。

即ち如何なることをするのが東亞の平和になるか、日本が如何なる地位を占めるのが東亞の平和になるかといふことを考へなければなりません。勿論まだ事變が進行中の今日でありますから、さう急速に最終的の決定案、——日本が支那をどうするかといふ事は少し早過ぎるかも知れません。私は此一年半ばかりといふのは實は閑散の身でありまして、大切な外交上の書類といふものも殆んど眼を通してをりませんが、併し一面に於いて自分の個人の考へを極めて自由に述べる事が出来ますので、私としてはこの事變勃發以來、自分の考へを各種の機關に發表して参つたのであります。

さうして自分の考へとして多少政府要路に向つて進言し、其一部分は或は既に御採用になつてをるかも知れません。猶ほ私は今年の正月から暫らく北支の方を廻つて参りましたが、其結果得心持として、私が考へたことは支那の軍備を撤廢せしむるといふことであります。今次の事變の解決

の條件としては或は抗日教育を禁止するとか、或は滿洲國を承認するとかいろいろの問題があるが、それよりも支那をして今後軍備を撤廢せしむる、今後再び抗日のための武力行動に出でさせないために永久に支那の武裝を撤廢せしむるといふ一種の協約を結んで置くといふことが一番肝要なことであらうと思ふのであります。支那の軍隊を廢めてしまつて、皆保安隊の如きものとして保安隊で治安維持をするといふことに支那の武力を限るといふことにしたい、さういふことを中上げたいのであります。これは一寸聴くと極端な議論のやうに思はれるかも知れませんが、私は此事變の解決點は支那の武力撤廢にあるんだといふことを其後機會ある毎に申してをるのであります。中には私の説を聞いて「白鳥の支那裁兵論」といつてをる人もありますが、とに角他の有ゆる解決條件は此支那の裁兵——武力撤廢の協約の下に規定されなければ日本の東洋の盟主たる地位なり、東亞の平和といふことは結局其目的が達成せられないと信ずるものであります。

今日政府はまだ必ずしも此考へを實行に移すといふ點には到達してゐないやうであります。支那が百萬、二百萬といふ軍隊を擁してをつて、而も其支那に對していろいろと日本に不利な行動に出るやうケンかける國がある、それを一々日本がやつてをつたのでは日本は東洋のことで手一杯であつて、少しも他に力を伸ばす餘力が與へられない、これはどうしても支那の軍備を撤廢しなければならぬと考へるのであります。

蔣介石は自己直系の精銳なる軍隊を二十萬養成するために二億の豫算を使つてをります。猶ほ其蔭に鴉片とか其他いろいろの財源を掴んで、これ等から獲た三億に近い莫大なる金を握つてをります。さうして一方に於いては民衆からは苛烈なる税捐を榨取してをる、さういふ惡政を布いて其軍隊を維持して來たのであります。御承知の通り支那では好い人は兵隊にはならない、「好人不當兵、好鐵不打釘」で兵隊になる人間は無頼漢か、社會の落後者であります。支那の内政の痛は軍隊であります。其痛である軍隊が此度の戦争で日本軍のために潰滅したのでありますから、日本の行動は何よりも支那人の信用を増すものであることは疑ひを容れないと思ひます。而も支那が軍備を撤廢すれば今迄軍隊を維持するために要した費用は當然要らなくなり、それだけ經濟開發、産業開發の方に向けられることとなり、支那は嚙がて見違へる程面目を一新し、國民生活も大いに向上して、市場としての支那の價值はますます現はれて來るだらうと考へるのであります。

さて今夕の講演會は大亞細亞協會の主催でありまして、此處にも「大亞細亞主義」といふやうな精神的な題が掲げられてをります。支那との提携を圖るには如何にも「大亞細亞主義」に本づく日支提携といふことが必要であります。然らば日本は此問題のために莫大な費用を使ひ、或は非常

な犠牲を拂つてをる、殊に御當地は例の上海の敵前上陸で大きな犠牲を拂つてをられます。此近邊の御家庭には其ために澤山お氣の毒なお方々もあらるゝことと信じます。其處へ来て私は苟くも外交に携はるもの一人として、此事變に就いてこれだけの損害を被つただけだからこれだけのものを貰はねばならぬ、例へば何十億の賠償金をとるか、或は領土をとるとかいふやうなことはこれは申上ぐる筋合のものではありません。併し乍ら日本が要求するところのものがあれば、例へば日清戦争に於いて我々は臺灣をとつた、或は日露戦争に於いて南滿と樺太の南半分とを獲た、今度の事變——戦争は日清、日露の時とは事情が異なるのでありますが、それにも拘らず今日既に相當の獲物があるのであります。

と申しますのは貿易上に於ける日支の關係といふものは、これ迄日本は寧ろ外國に比べて非常に不利な立場に置かれてをりました。支那は日本品に對して大きな税を課してをります。所謂門戸開放とか、機會均等とかいふことは日本に對してはなかつたのであります。然るに此度の戦争の結果如何に此問題を決めるかといふことに就いて、先づ第一に絶對的な發言權を有してをるのは日本であると思ひます。日本の大陸に於ける發言權といふものは今日全く問題ぢやない、事變の當初には日本の支那に於ける行動に對して三百代言的に、或は九ヶ國條約違反であるとか、不戰條約違反で

あるとか稱している、非難しましたが、今日となつては日本が支那の各都市に爆弾を落し、或は都市を攻撃しても何處の國も黙まつてをる、何ともいつてをらぬ、即ちアメリカのモンロー主義といふことを申しますが、尠くも今度の事變に依つて日本の大陸モンロー主義といふものが既に確立されたのぢやないかと思ひます。これは非常に大きな收獲であります。

日支事變に依つて日本は經濟上の便益が獲られ、其結果支那を助けて軍閥を滅ぼし善い政治をやる、さうして民衆の生活をよくしてやる、支那は又日本の商品に對して差別的な取扱ひをしない、斯くして日支が緊密に結びつくことになれば、假令日本が世界全體から壓迫を受けようとも、此支那の資源、支那の勞働力、支那の市場を握つてをれば日本の地位は安固たるものがあると思ふのであります。獨立獨歩、日本は經濟的にも其地位が非常に安定するのであります。

其結果從來亞細亞を我がもの顔に左右して來た西洋諸國の勢力は失はれ、日本の支那に對する發言に對しては何國の容喙も許さない、斯やうな確乎たる日本の地位が打立てられれば、其經濟上の大なる利益から考へて、假令日本の忠勇なる將士の血が百萬流れても私は最も意義があることであらうと思ふのであります。今次の事變で尊い生命を抛たれても、それは崇高なる犠牲であると思ふのであります。

さて然らば日本の支那に對する行動に對して諸外國はどう見てをるか、これは先程も申し上げました通り、此事變の當初は日本の今回の行動に就いては侵略戰である、條約違反であると申しましたが、何分にも實力を持つてをる日本が敢然として支那膺懲の聖戰を展開する前には支那軍が一堪まりもなく潰敗して遂に今日に至りましたので、これは既成事實として認める外はないといふ風にだん／＼變つて参りました。例へばアメリカの如きは所謂中立の政策を標榜してをるのであります。事變當初に於いても中立を嚴守し、其點竄る公平でありましたが其後イギリスから働らきかけられ且つ例のアメリカの軍艦の撃沈事件があつたりして大分惡化したのであります。幸ひ現地に於ける我が當局の公明なる態度に依つて其空氣が昨今較々緩和されたやうでありますけれども、併し乍らアメリカの大統領並に國務長官の日本に對する態度は必ずしもいいとはいへないのであります。ともすれば反日的姿勢を示すのであります。「世界平和を維持するためには民主主義國家ブロックを結成しなければならぬ」などといふやうなことを叫んでをるのであります。勿論一方にはそれに對して日本のやり方に同情してをるものもあります。其論者は大統領の態度はアメリカを第二の世界大戰に引入れるものだといつて非難してをるのであります。要するに今日のアメリカの國策は、「戰爭は怖い、戰爭はもう懲り／＼だ」といふので戰爭の渦中に引入られることを極端に嫌つて

をります。思想的には反民主主義である日、獨、伊のブロックといふものに對して可なり強い不満を抱いてをりますが、戰爭を賭して迄も日本に向つて盾つくといふ氣持は今の處ないやうであります。民間の識者、學者の中には日本の眞意を了解しないで、此前の滿洲事變當時と同じく随分日本の所謂不法行爲を論ずるものが可なりありますけれども、國家の政策として此際日本に對して何等かの行動に出づるといふことは實際問題として出來ないんぢやないかと思ひます。

或はイギリス、ロシアなどが若し日本に對して立上がつて來るならば、其時は恐らくアメリカは其尻馬に乗るかも知れぬと思ひますが、それ迄はアメリカが單獨で日本に向つて來るとは考へられないのであります。でありますから日本としては此際強いてアメリカを叩く必要がないと思ひます。殊に今日若しアメリカが英、佛、露と一緒になれば、日本は又獨、伊といふものと一緒になつて茲に第二の世界大戰になるといふ懸念が多分にあるので、アメリカとしては到底これ以上乗出して來ることはなからうと考へます。

然らばイギリスはどうかといへば、イギリスは支那に於いて最も大なる利害關係を持つてをります。イギリスは當初日本がイギリスの在支既得權益を尊重すると申してもどうしても聽かない、イギリスは今日支那に於いて日本人よりも優越な地位にをるところから、これが主客顛倒して今後は

日本が有利な立場に立つことに非常な苦痛を感じてをるやうであります。イギリスが飽迄も日本に對抗して蒋介石を助けるといふことも疑ひない事實であります。然らば此イギリスが武力を以て日支事變に干渉して来るかといへば、私はさういふことはあるまいと思ふのであります。併しアメリカが起つならイギリスは起つだらうと思ひます。世間ではイギリスが東洋に手を出さないのはヨーロッパの情勢の不安なためである、獨、伊の例のベルリン・ローマ樞軸が出来てイギリスがヨーロッパの問題に就いて大いに惱まされてゐたから、東洋に手を出さなかつたが、今度英、伊協定が出来たので今後は大いに東洋の問題に就いて喙を容れるだらうと見てをるやうであります。が、私はそれはイギリスの國際上の地位から見て、英、伊協定が出来てもヨーロッパに於ける獨、伊の聯立に對してイギリスは非常な壓迫を受けてをる關係上、逆も今東洋の問題に就いて手出しする餘裕がなからうと思ひます。彼のエチオピアの問題に就いてもイギリスは事毎にイタリアに叩頭してをります。最近に到つてイギリスは遂に國際聯盟でイタリアのエチオピア併合を認むるといふ迄讓歩してをります。スペインの義勇軍引揚問題に就いてもイギリスはイタリアのために翻弄されてをるやうに見られるのであります。とに角ムツソリーニ首相の理想とするローマ帝國の再建——地中海の征覇といふことは必ずイギリスと衝突すべき運命にあるものであります。

それでイギリスとしてはイタリアをドイツから引離すと共に日本とも引離し、日、獨、伊の防共協定國をチリ／＼に切離さうといふのが彼の腹であります。またイギリスとフランスが同盟を結んだ、英、佛の軍事協定が成立したといふ人がありますが、これは單に今迄あつたものを更新したに過ぎません。殊に軍事同盟ならばフランスの大統領がロンドンを訪問する時に軍事専門家を連れて行かなければならぬ筈であるのにそれがなかつた、さういふ點から見てもこれはさう大して進んだものではないと考へられるのであります。これはドイツが先にオースタリーを併合しましたが、更に今度はチェッコの一部をも併合せんとしてをるので、さうなるとチェッコと相互不侵略條約を結んでゐるフランスが非常に困難な立場に置かれることになりましたので、イギリスとしてもフランスを應援するといふ位の意味で此協定を結んだものであると思ひます。私は英、佛の軍事協定はさう大したもんぢやないと考へます。

猶ほ日本に於きましてはドイツ、イタリアといふものに對して十分の認識を持つてをらないやうであります。一部の識者の間には防共協定といふものを餘り深く考へてをらないやうであります。今日の國際情勢を仔細に點検して見ますと、日支事變の上から考へてもどうしても此防共協定を強化して行くことが絶対に必要であると思ふのであります。(拍手)

今度の事變に際して、ドイツは初め支那に向つて武器を賣つてをりましたので、此事實を捉へて「ドイツは日本と防共協定を結び乍ら一方に於いて支那に武器を賣つてをるぢやないか」といつて防共協定に水をささうとした人もあります。又ドイツに於いても「我々が日本と防共協定を結んだのは唯ロシアが恐ろしいからである、然るに今日日本が其ロシアを抛つて置いて支那と戦つて其國力を消耗してをる、而も一方支那はドイツにとつては貿易上大のお得意である、防共協定のためにドイツは支那に於ける貿易を失つてしまつた」と申して防共協定に水をささうとしたものもあるのであります。日本でも日獨協定が出来ました時に、いろ／＼な批評をした人があります。

併し、凡そ國際間の關係は力が物をいふのであります。力の無いものは如何にそれを味方としても頼母しくないのであります。日本が獨、伊と防共協定を結ばず、イギリスやアメリカが日本の實力を恐るゝに足らずと思へば、今でも直ちに實力行動を起すかも知れません。又ロシアにしても日本恐るゝに足らずと見ればこれ又何時實力を以て迫つて来るかも知れません。私が今日の日支事變が非常に重大であるといふのはさういふ點にあるのでありまして、此度の問題は蔣介石政府を叩き潰せばそれでいいといふことではないのであります。

日本は支那に對して行動を起すと共に一方ロシアに對しても備へをしなければならぬ、或は英、

米に對する備へもしなければならぬ、其方に對する備へは備へとして強化し乍ら、支那に對してはドン／＼軍を進めて行かなければならない、其ために此事變に對して日本の必要とする力といふものは非常に大きなものがあります。半分の力を以て蔣介石を倒し、半分は他に備へて置かなければならぬ、或は此事變が済んだ後で、今日より以上の大きな戦争が起るかも知れない、或は又今の事變が進展して其儘第三國との間に大きな戦争が始まるかも知れない、さういふことも十分認識して今後に来るべき諸外國よりの壓迫を排除することを考へて置くことが肝要であります。戦争に敗けないなら壓迫を受けることはないと思はれるかも知れませんが、それは戦争だけの推移を見てのことではありません。さう簡單には考へられませんか。其點をよく考へて見る時に日本は此際更に一層の努力をしなければならぬと思ひます。茲に問題の重點があると私は信ずるものであります。

今日日本は支那に對して、「日本は亞細亞民族の解放」といふ非常に高い理想を掲げて行動してをりますが、其日本の高遠なる理想を外國人に篤と了解させるには、或は支那人に了解させるにはどうしても功利主義、營利主義の彼等支那人、西洋人には何か形に現はれた事實を以て示してやらなければならぬといふのが正しき認識であります。支那を一度叩き潰して、それから造り直す、全

支那人に何か眼に見えるもので示すことにして知らしむる、それ迄日本は飽迄も力で以て行く、さうでなければ私は日本が現在大陸に乗出したけれども、此決意がなければどうしても此事變の結末がつかぬと思ひます。

私の今度の事變に對する感想は大體以上の如くであります。(拍手)

——をはり——

昭和十三年八月十八日 印刷
昭和十三年八月二十日 發行

名古屋市東區車道東町一二三

編輯兼 宅間重太郎
發行者

名古屋市中區流川町一八

印刷者 横井憲太郎

名古屋市中區流川町一八

印刷所 一粒社印刷所

電話中局四三〇二番

名古屋市東區車道東町一二三

發行所 大亞細亞協會名古屋支部

電話東局(4)〇七〇七番